

# 大西洋クロマグロ 東大西洋

Atlantic Bluefin Tuna, *Thunnus thynnus*



## 管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

## 最近の動き

2013 年の ICCAT への報告漁獲量は約 13,300 トンであった。ICCAT では 2014 年 9 月に資源評価を更新した。この更新では、数理モデルへの入力データに最近 2 年分の漁獲情報・資源指数を追加するとともに、モデルの詳細は前回 (2012 年) の資源評価での設定を踏襲した。その結果、親魚資源量は 1970 年代から 2000 年半ばまで減少し続けた後、近年は急激な増加傾向に転じたと推定された。ただし、推定された親魚資源量の増加速度や量には高い不確実性があると考えられている。近年 (2011 ~ 2013 年) の親魚資源量は過去最大時 (1957 ~ 1959 年) の約 175% (実際の漁獲量が公式報告漁獲量よりも多い場合は 190%) であった。これを踏まえ、2022 年までに 60% 以上の確率で MSY を達成するとの管理目標に対し、現行の資源評価では、定量的に評価しきれていない不確実性が含まれている懸念はあるものの、最も予防的な MSY 程度の漁獲量 (約 2.3 万トン) までであれば回復目標を達成可能と勧告した。この科学委員会 (SCRS) の管理勧告を踏まえ委員会は、SCRS での毎年の資源評価指数による判断を条件づけた上で、総漁獲量 (TAC) を 2015 年に 16,142 トン (日本枠は 1,345 トン)、2016 年に 19,296 トン (1,608 トン)、2017 年に 23,155 トン (1,931 トン) にすると決定した。なお次回の資源評価は、2016 年に東西系群の混合も考慮した新たなモデルを開発して実施する予定である。

## 生物学的特性

- 寿命: 25 ~ 30 歳
- 成熟開始年齢: 4 ~ 5 歳
- 産卵期・産卵場: 6 ~ 8 月、マジョルカ島からシチリア島にかけての地中海
- 索餌場: 地中海、ビスケー湾等、北緯 35 度以北の大西洋
- 食性: 魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者: まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

## 利用・用途

すし、刺身

## 漁業の特徴

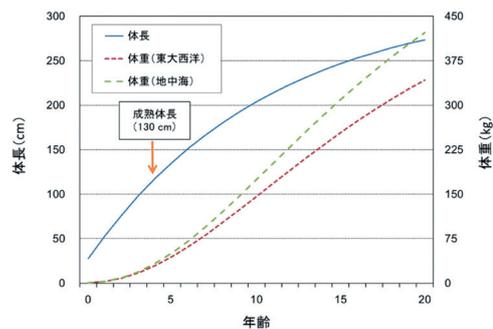
主な漁業国はスペイン、フランス、日本、イタリア、モロッコ、チュニジア及びトルコである。日本ははえ縄、スペインは定置網と釣り漁業とまき網、フランスはまき網、イタリアはまき網で漁獲する。東大西洋 (ビスケー湾) と地中海 (まき網) では小型魚 (2 ~ 5 歳) の漁獲が知られているが、特に地中海における過去の漁獲量統計値の精度には疑問がある。

## 漁業資源の動向

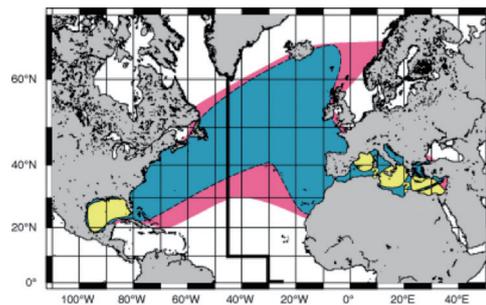
2013 年の ICCAT への公式に報告された漁獲量は約 13,300 トン、そのうち地中海は約 9,200 トンであった。

## 資源状態

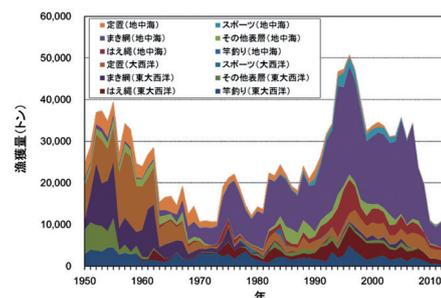
親魚資源量は 1970 年代より 2000 年半ばまで減少し続けた後、近年は急激な増加傾向に転じたと推定された。ただし、推定された親魚資源量の増加速度や量には高い不確実性があると考えられている。公式報告漁獲量が正しかった場合、近年 (2011 ~ 2013 年) の親魚資源量は過去最大時 (1957 ~ 1959 年) の約 175% (実際の漁獲量が公式報告漁獲量よりも多い場合は 190%) であった。前回 (2012 年) に行われた資源評価結果よりも楽観的であり、資源水準は高位で、増加傾向と評価された。



大西洋クロマグロ (東系群) の年齢あたりの体長と体重



大西洋クロマグロの分布域 (赤) と主要漁場 (青)、産卵場 (黄) 縦太線は東西の系群の境界。索餌場は産卵場を除く分布域。



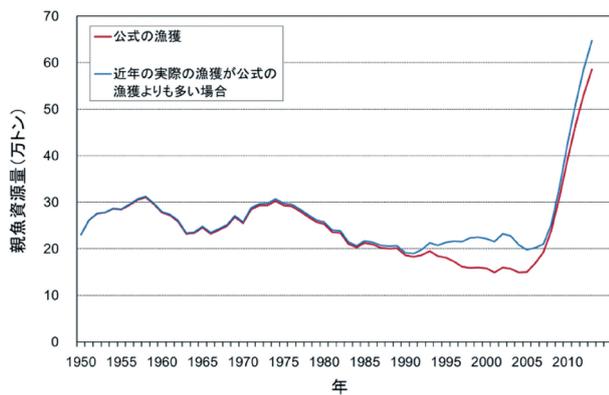
大西洋クロマグロ (東系群) の漁法別海域別公式漁獲量の推移 (1950 ~ 2013 年)

### 管理方策

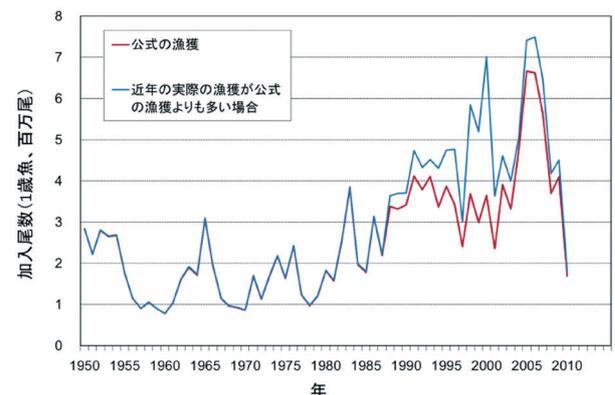
SCRS は、近年の規制により明らかに漁獲量及び漁獲死亡が減少したこと、最近年の全ての資源量指数が上昇傾向であることを明記した。管理目標については、現行の資源評価では、定量的に評価しきれていない不確実性が含まれている懸念があり、将来の資源回復確率を定量的に示すことは困難としながらも、最も予防的な MSY 近年程度の漁獲量（約 2.3 万トン）までであれば回復目標を達成可能と勧告した。なお、TAC を増加する場合は急激な増加を避け、数年（例えば 2～3 年）かけるべきであり、毎年、資源量指標（CPUE 等）などに基づく SCRS のアドバイスを受けるべきであると勧告された。この SCRS の管理勧告を踏まえ、委員会は TAC を 2015 年に 16,142 トン（日本枠は 1,345 トン）、2016 年に 19,296 トン（1,608 トン）、2017 年に 23,155 トン（1,931 トン）にすると決定した。委員会では、全ての生簀において活け込み時の尾数及び重量の推定のため、ステレオビデオカメラ、または同等の情報が得られる方法を 2013 年より導入している。その他の規制は、まき網、蓄養へのオブザーバー制度の導入を含む管理強化、地中海のまき網漁業の禁漁期の設定と魚群探査用の航空機利用の禁止、小型魚を保護するため 30 kg 以下の小型魚の漁獲・陸揚げ・販売の禁止、漁獲証明制度がある。

### 大西洋クロマグロ（東大西洋）の資源の現況（要約表）

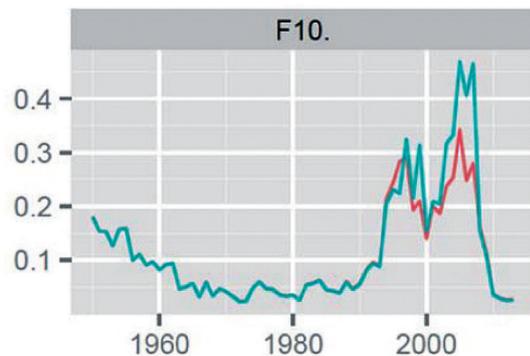
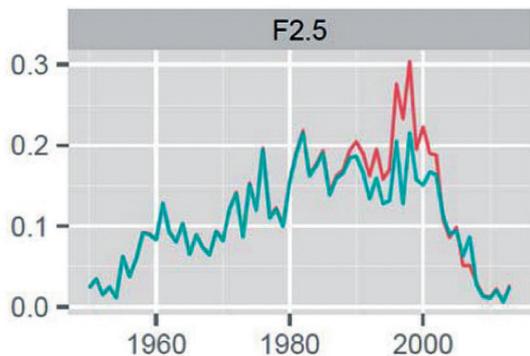
資源水準	高 位
資源動向	増 加
世界の漁獲量 （最近 5 年間）	1.0～2.0 万トン 平均：1.3 万トン （2009～2013 年公式報告漁獲量）
我が国の漁獲量 （最近 5 年間）	1,089～1,922 トン 平均：1,277 トン（2009～2013 年）
最新の資源評価年	2014 年
次回の資源評価年	2016 年



大西洋クロマグロ（東系群）の親魚資源量の経年変化  
赤は公式に報告された漁獲量を用いた場合、青は 1998～2007 年の実際の漁獲が公式に報告された漁獲よりも多かった場合。



大西洋クロマグロ（東系群）の加入尾数（1 歳魚）の経年変化  
赤は公式に報告された漁獲量を用いた場合、青は 1998～2007 年の実際の漁獲が公式に報告された漁獲よりも多かった場合。



大西洋クロマグロ（東系群）の 2～5 歳（左図）及び 10 歳以上（右図）の漁獲死亡率  
赤は公式に報告された漁獲量を用いた場合、青は 1998～2007 年の実際の漁獲が公式に報告された漁獲よりも多かった場合。